

2019年11月5日  
日本ガス協会

## 日本ガス協会 広瀬会長 会見発言要旨

### 1. LNG日本導入50周年～次なる50年に向けて～

昨日11月4日は、日本がアラスカから初めてLNGを導入してから、ちょうど50年にあたる日であった。LNG導入以降の50年で、お客さま数は大きく伸び、家庭用だけでなく工業用へも販路を拡大することで販売量も大きく伸長した。これはまさにLNGを導入した結果であり、都市ガスは国民の暮らしと産業活動になくてはならないエネルギーへと成長した。

また、最近はLNG産消会議という国際会議も開催されており、LNG産出国・消費国が対立するのではなく、双方協力してLNGを普及拡大していこうという前向きな機運も醸成されるようになった。

ただ、過去50年を振り返るだけではなく、今日からまた決意を新たに、次なる50年に向かって進んでいくことが重要である。我々ガス業界は、LNGの一層の普及拡大に加え、気候変動問題に対応した低炭素化への貢献や、頻発する自然災害に対するレジリエンスの強化等、新たな課題に対しても積極的なチャレンジを続けていく所存である。

なお、この50周年という節目にあたり、「LNG ～50年の軌跡とその未来～」が出版された。基幹エネルギーとしてのLNG・天然ガスの重要性、可能性を理解するための格好の啓発書であり、是非ご一読頂ければと思う。

### 2. 暮らしとまち未来会議2019 総括

10月31日に「暮らしとまち未来会議2019」というイベントを実施した。当会議は、ガス業界だけでなく、住宅業界やキッチン・バス業界、機器メーカーなどとのコンソーシアムである「ウィズガスCLUB」等が、ガスとい

う枠を超えて共同で開催する点が一番の特徴である。

会議の最後には、「暮らしとまち未来会議 2019 宣言」を発信した。キーワードは「健康」「快適」「安全」であり、「新しい技術の積極的導入や適切な温熱環境の実現を通じた、健康・快適な暮らしの創造」と、「レジリエンス性と環境性に優れたコージェネレーションシステムの普及による、安全・安心、持続可能なまちづくり」の実現に向け、会議参加メンバー力を合わせて貢献していきたい。

### **3. 日本ガス協会の改革に伴い定款改正について**

10月31日の日本ガス協会の臨時総会において、協会の定款改正が決議され、成案となったためご報告する。今回の改正のポイントは「会員構成」と「業務執行体制」の見直しである。

まず、会員構成について。従来の正会員資格は、一般ガス導管事業者とガス小売事業者の両事業を行っている会社であったが、自由化になり様々な形態の事業者が出て来られたため、それらに対応できるよう改定した。ガス事業は、「お客さまに導管を通してガスをお届けする」ことがその根幹であることから、「導管領域で事業を営む者」、具体的には「一般ガス導管事業者」と「一般ガス導管事業を分離した場合のその株式すべてを所有する親会社」を正会員とした。一方、今後の都市ガスの普及拡大には、既存・新規を含めた小売事業者の力が極めて重要となるため、小売事業者を「準会員」とした。

今回の見直しにより、2022年の大手ガス事業者3社の導管分離や、今後想定される様々な形態にも柔軟に対応できるものとする。

2つめのポイントは業務執行体制の見直しである。日本ガス協会では決議機関として総会があり、執行機関として理事会があるが、その下に会長・副会長会議、地方部会長会議、委員会といった諮問機関を設けた。その中で今

回一番期待しているのは、地方部会長会議である。日本ガス協会としては、今後一層、政策立案能力や発信力を高めていきたいと考えており、実質的な社長会である地方部会長会議で地方の声を吸い上げることで、有用な政策の検討や立案を行っていきたい。また、各委員会では専門的な議論を行うなど、各機関の位置付けや役割を明確化し、本来注力すべきことに集中して取り組める体制にすることで、課題対応力を強化していきたい。

#### **4. 今後の予定について**

11月6日は横浜でLNG50周年記念イベントが開催される。また、翌7日は、ガス業界の課題である地域活性化の取り組みをテーマにした「地域活性化フォーラム」を盛岡で開催する。是非足を運んでいただきたい。

以上